

専攻医（後期研修医）募集にあたって

平成 29 年に開始された専門医制度においては、専門研修基幹施設として研修プログラムを提示し、専攻医の募集をしています。本プログラムは、兵庫県立こども病院、神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市民病院機構神戸市立医療センター西市民病院、京都大学附属病院と連携して研修するシステムです。小児疾患の診療だけではなく、地域の病院で乳幼児健診・予防接種などの小児保健に関する経験を積み、こどもの「総合診療医」として活躍できる力を身につけられる研修課程です。定員は 2 名です。詳細はホームページ上にプログラムが掲載されていますのでご参照ください。下記に基幹病院（西神戸医療センター）の先輩専攻医からのメッセージと専攻医修了後の進路を掲載します。

令和 6 年 4 月のスタッフの写真



後列左から、堀雅之、山口善道、岩田あや、磯目賢一
中列左から、久保萌加（専攻医）、平海良美、青田千恵
前列左から、中田圭一、内藤昭嘉、松原康策、川崎悠

先輩からのメッセージ

1) 田坂佳資 先生：西神戸医療センターで後期研修 3 年間（平成 26—28 年度）終了後（初期研修も当院）、京都大学大学院、倉敷中央病院、現在静岡県立こども病院 血液腫瘍科

後期研修医の期間は、専門性が極めて高い、希少あるいは重症な疾患を重点的にというよりは、common disease を含む数多くの症例を経験したいと考えていました。当院は地域中核病院であることから、common disease から重症疾患まで多岐にわたる疾患を数多

く診ることができるということで、自分にとってはピッタリな病院でした。また新生児も、極低出生体重児や人工呼吸器管理が必要な症例など重症症例も診ることができます。さらに通常の外来だけでなく、定期健診や予防接種など市中病院ならではの業務にも携わることができます。当院では、後期研修医はそうした数多くの症例や外来を担当することができるため、学ぶことが多くあり、充実した日々を過ごしています。後期研修医になって少し慣れてくると、夜間の救急外来を任されます。数多くの患者が来て、中には見たことのない症例にも遭遇するため、戸惑うことも多いですが、自分で診るからこそ、きちんとアセスメントし、どういった治療が必要かを常に考える力が養われている（と自分で勝手に自負しています）。そういった実臨床だけでなく、学会や研究会で発表したり、論文を書いたりする機会が多いなど学術的なことができることもまた、当院の魅力の一つだと思います。いろいろ難しい症例に遭遇することも多いですが、週末のカンファレンスや週 2 回の回診など、常に上級医と相談できる環境にあり、それ以外の時でもいつでも快く相談に乗っていただけます。これも、上の先生から下の先生まで垣根なく、アットホームな雰囲気が持ち味の当院小児科だからだと思います。ぜひ当院の小児科で一緒に働ければと思います。

2) 永井貞之 先生：西神戸医療センターで後期研修 3 年間（平成 26—28 年度）終了後兵庫県立尼崎総合医療センター、神戸大学大学院、兵庫県立丹波医療センターを経て、現在は兵庫県立加古川中央市民病院

当院で研修して実感したことは、神戸西地域を診療する地域中核病院として夜間小児救急に長年、力を入れていて、周辺の医療機関からの紹介や救急車を含め、一晩に数多くの患者さんが来院されることです。通常時間帯も含め、肺炎、喘息などの比較的よく遭遇するものから、腸重積、髄膜炎など緊急対応を要するものまで幅広く多くの症例を経験できます。私は初期研修病院で小児の救急対応の経験がほとんどなく救急業務（専攻医 1 年目の 4 月から小児科当直が始まります）に不安を感じていましたが、まずは上級医と二人で対応する形でスタートするので安心しました。かといって「上級医の背中から患者を見ている」といった研修スタイルではなく、自分がメインとなって診療、処置に当たるため「見ている」研修に比べ悪戦苦闘することも多いですが、救急対応力はより早く養われます。また上級医の方々はコンサルトしやすい方ばかりですのでその場で新たな知識、技術を得ることもできます。昔からこうした研修の土台が築かれていることは、これから小児科医を志す医師が研修するには貴重な環境だと思います。

3) 川口晃司 先生：西神戸医療センター専攻医 2 年（平成 24—25 年度）の後、京都大学小児科を経て、現在、静岡県立こども病院 血液腫瘍科

私は研修医として 2 年間、小児科専攻医として 2 年間、西神戸医療センターで研修させて頂きました。西神戸医療センターは神戸西地域の救急医療の中核を担っており、数多く

の症例を経験することができました。小児科医として学ぶべき幅広い疾患の診療技術を上級医の丁寧な指導のもと習得できます。また、学会報告や論文発表も盛んです。医師としての基礎を築く上で最適の研修病院だと思います。ぜひ西神戸医療センターでの研修をお勧めします。

4) 宇治田風紗 先生：平成 31—令和 2 年度研修、専攻医研修修了後、現在国立成育医療研究センター内分泌・代謝科

わたしは後期研修医として 2 年間研修させていただきました。研修中、日中は入院患者さんや院内出生の新生児の診察を行い、健診や予防接種、救急対応などの外来診療も行います。慣れた頃には毎週の定期外来の枠を頂き、退院後の患者さんのフォローアップや新規の患者さんの診療にあたり、様々な症例を経験することができます。また救急外来は神戸市西地域の中核病院として毎日診療をしています。神戸市西区のみならず、広域から患者さんが救急受診されるので数多くの症例を経験することができました。

「上級医の後ろを追う、言われたことをする」ではなく、「専攻医であっても自分が主治医として責任をもって診療する」というのが当たり前の環境なので、患者さんのことを第一に考えて主体的に動ける小児科医の土台を作るには最適の病院だと感じます。

5) 中尾聡宏 先生：令和 2—3 年度研修、専攻医研修修了後、現在八尾徳洲会病院
神戸西地域の中核病院であり **common disease** を幅広く経験できます。また新生児も 30 週以降の早産・低出生体重児の管理をはじめ、新生児疾患を多く経験でき小児科のスタートとして非常に適切な病院であると思います。

当院で経験が難しい症例は 2 年間経験を積んだ後、3 年目でこども病院等の専門医療機関で研修ができ 3 年間を通じて幅広い症例が経験出来ます。

また学会発表や論文作成も指導医の先生の全面バックアップのもと丁寧に指導して頂けるので学術面でも成長出来ることは間違いありません。

当直等で忙しくなることもあります。小児科スタッフの先生もコメディカルの方も皆優しく働きやすい病院です。

6) 飯尾享平 先生：令和 3 年から研修開始、現在京都大学病院

私は当院で初期研修を行い、そのまま小児科専攻医として引き続き勉強させていただくことになりました。当院は小児症例が豊富な地域にあり、救急外来もたくさん小児が受診します。一般的な小児疾患を初診から入院まで経験、勉強できます。また新生児の症例も豊富で、研修の決められた期間はなく研修中は当番制で新生児を担当しますので、長く新生児の勉強が出来ます。小児科医の数も豊富で、それぞれの分野の専門の先生がスタッフとして在籍していますので質問もしやすいです。学科発表や論文発表など学術的な面でも積極的に発表でき、丁寧な指導を受けることが出来ます。当院は職種間の垣根が低く様々

な人に接しやすい病院です。ぜひ一度見学に来てください。

7) 和田尚一郎 先生：令和 4 年から研修開始、専攻医研修を終えて、現在京都大学小児科

私は当院で初期臨床研修を 2 年間行った後、小児科専攻医として引き続き研修させていただいております。当院のプログラムの最大のポイントは「自分が主体となった医療を経験できる」ことだと思います。当院では比較的早くに主治医や当直医となり責任をもって診療にあたることができます（もちろん上級医の先生方は皆優しく深夜に電話をかえても嫌な顔ひとつせず助けてくれます！）。

自分が主治医になり、自分を頼ってくれる患児や家族を目の前にした時に初めて、これまでは気にも留めなかった臨床疑問がたくさん出てきます。明日状態が悪くなったらどうしよう、輸液はこれで良いのか、鑑別は他にないのか、いつ次の検査をするのか、いつ退院できるのか、いつから保育園に行っていくのか etc.

上級医の出した指示を追いかける研修ではなかなか気づくことのできないものです。

当院での研修は **common disease** が主体ですが、教科書に書いていることだけでは対処できない場面がたくさんでできます。大変な面もありますが、元気になった子供の退院を主治医として見送る瞬間は何事にも変える事のできない喜びがあります。そしてそこで得た知識は生きた知識として蓄積されると思います。

また当院は神戸西地域の中核病院であり数多くの患者さんが来院されます。目を凝らして常に疑問を持ち続ければ非常に稀な疾患を見つけることもできます。

こどものジェネラリストである小児科医として、基礎を身につけるのに最適な病院です。ぜひ一度見学にきてください。

8) 仲田文雄 先生：令和 5 年から研修開始、専攻医研修 2 年目間の当院の研修を終え、現在専攻医 3 年目として兵庫県立こども病院と神戸市立医療センター中央市民病院で研修予定

私は当院で初期研修を行い、引き続き小児科専攻医として研修させていただいております。当院は神戸西地域の中核病院で患者さんの数も多く、**common disease** も含め様々な疾患を診ることができます。外来では専攻医 1 年目から枠を持つことができ、初めて診る疾患や診断するのが難しい症例など苦勞することもあります。自分で考えて、一つ一つ疑問を解消していくことは大変貴重な経験となります。

入院中の患者さんも、入院から退院まで主治医として責任を持って診ることができます。また、それぞれの専門分野の上級医の先生がいらっしやり、専門的な知識も優しく指導していただけることも大変勉強になります。様々な症例を経験することができ、主体性を持って診療できるので、小児科医のスタートとして最適な病院だと思います。

9) 久保萌加：令和 6 年から研修開始、専攻医研修 2 年目を当院で研修中

私は初期研修から後期研修まで引き続き当院で研修させていただいております。初期研修の見学のときから、小児科の和やかな雰囲気に加え、当院全体の温かな雰囲気や、診療科どうしの垣根の低さに大変魅力を感じました。

小児科で実際に後期研修を始めて、約 1 年が経ちましたが、上級医の先生方がとても親身になって指導してくださるため、毎日学ばせていただくことが多いです。当院の研修は基本的に専攻医も主治医として一人立ちをしますし、外来も当直も一人で行うことが多いのですが、各分野の専門の先生方にご相談するといつも丁寧に対応してくださるため怖い思いをすることはなく、主体的に診療に当たることが出来ます。「専攻医も主体的に診療を行う」という点は当院の小児科研修の特徴なので、貴重な経験をさせていただいていると思います。

また、小児科医は総合診療医であり、様々な疾患に精通していないといけませんが、当院の研修であれば、たくさんの患者さんが来院されるため症例はたくさんだと思います。外来や当直帯での患者数は多く、ときに難しい症例にあたるなど大変なこともあります、その分日々成長を実感できます。

学会や論文発表にも当院の小児科研修は力を入れており、市中病院であっても学術的な研修も同時に行うことが出来ます。

最後になりますが、私は初期研修から後期研修まで当院を選んで本当に良かったと感じています。ぜひ一度見学にいらしてください。